

THE NIKKEI MAGAZINE

日経マガジン 教育特集号
26 January 2018

Education

医学部受験特集

医師を目指すキミたちへ

巻頭インタビュー

人生は、やるか
やらないか。

医師
特定非営利活動法人「ジャパンハート」
ファウンダー・最高顧問 吉岡 秀人氏

有力予備校が語る
生徒を最難関合格へ導く
必勝アプローチ

表 4_ 広告

私にできることは、皆さんにもできる。
人生は、やるか
やらないか。



手術中の吉岡氏

医師
特定非営利活動法人「ジャパンハート」
ファウンダー・最高顧問

吉岡 秀人氏



表2_ 広告

**浪人後、理系に転向し
医師になることを心に誓う**

——吉岡先生が設立したジャパンハートは、どんな活動をしているのですか。

ミャンマー、カンボジア、ラオスといったアジアの各国に医療を届けています。子どもの治療は無料で行っていて、その費用は日本の皆さんからの寄付で賄っています。医療スタッフは現地に駐在しているほか、日本の医療機関などで働いている医師が、休暇を取って「手弁当」で活動に参加してくれています。その数はこれまでに数百名にも達します。

——そもそも吉岡先生はどうして医師になろうと考えたのですか。

私は1965（昭和40）年に大

30歳で単身、軍事政権下のミャンマーへ渡って無償の医療活動を続け、2004年に国際医療ボランティア団体「ジャパンハート」を設立した小児外科医の吉岡秀人先生。医師をめざす若者たちへ、メッセージを頂きました。

阪府吹田市で生まれました。5歳のときに大阪万博があり、日本は活気づいていましたが、身近に戦争の名残がありました。そんな60〜70年代、世界では何があったか。ベトナム戦争では大勢の市民が犠牲となり、カンボジアでは内戦やポル・ポト政権による弾圧によって数百万人もが亡くなったといわれています。中学生になってから、そうした事実を報道写真などで知り「人の運命は、ほんの少しの時の空のずれで大きく変わるものなのだ」と気づかされました。それと同時に、平和で豊かな時代に暮らせる自分の境遇に申し訳なさや感謝の気持ちを抱くようになりました。しかし、当時はまだ自分が何をすべきかわかりません。それでは私は10代の終わりまで、勉強もせ

THE NIKKEI MAGAZINE Education

医学部受験特集

—— 医師をめざすキミたちへ ——

CONTENTS

- 03 Special Interview
医師/特定非営利活動法人「ジャパンハート」
ファウンダー・最高顧問 **吉岡 秀人氏**
- CLOSEUP 医学部受験 塾・予備校
- 06 メディカル ラボ
- 08 Y-SAPIX
- 10 富士学院
- 13 YMS
- 14 イベント情報

日経マガジン エデュケーション 広告特集
企画・制作=日本経済新聞社
クロスメディア営業局

編集・デザイン・構成/広典アド
取材・文/cubix、黒木比呂史(拓文社)
撮影/近藤豊(帝国写真)、仙洞田猛(帝国写真)、
戸井田夏子

プレゼント
本特集に関するアンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で図書カード2,000円分を10名様にプレゼントします。
★詳しくは14ページへ

何をするにも全力で。 行動しないことが、 人生の本質的な失敗なのだ。



ミャンマー・サイクロン被災者緊急医療支援 (2008. 5.11 ~ 8.31)



[左] 学生チームが寄付を募り、難病の女児を日本で治療 (2012)
[右] ミャンマーでの活動初期の吉岡氏 (1995)

PROFILE

吉岡 秀人
Hideto Yoshioka

大分大学医学部を卒業後、大阪、神奈川の救急病院に勤務。1995～97年にミャンマーで医療活動を行う。一度日本に帰国し、小児外科勤務を経て、2003年からミャンマーでの活動を再開。04年、ジャパンハートを設立。東南アジアでの医療支援活動のほか、小児がんの子どもや家族のための「すまいるスマイルプロジェクト」などを行っている。



ず、オートバイに乗ったりゲームセンターに入り浸ったりして遊びまわっていました。

そうしたなかでの大学受験。当時は文系でしたが、共通一次試験(現在の大学入試センター試験)の数学と英語は0点でした。何しろ試験前日に数学の教科書をながめて「数列」という言葉の意味がわからないのです。

当然、志望校は不合格でした。それで、浪人してから自分の人生を考え直し「自分は何をやるべきなのか」と自問自答しました。すると、かつて報道写真などで知った途上国の様子などが頭の中でよみがえってきました。困っている人たちに貢献するのが自分の仕事だ、そして、それは医師なのだと思っただけです。そこで、一浪目の

途中から理系に転向。周囲の人からは「医学部なんて無理でしょう」と言われましたが、猛勉強し、二浪の末に合格しました。

目標を持ったから成績が急上昇した

——医学部受験に向け、どのように勉強に取り組んだのですか。

そもそも勉強する習慣がなかったのですが、最初のうちは「机に向かうことが、これほど大変なのか」と思うほどでした。「医療を受けられない人のために、いい医師になるんだ」という目標だけが、勉強を続けるモチベーションでした。だから、医学部を目指す皆さんに言いたいのは、何よりしっかりと目標を持ってほしいということ。しっかりと目標があると、たいていのことは辛抱できます。私は、目標を持ったおかげで勉強に耐え、無理だといわれた医学部に合格できたのです。

勉強は医学部に入ってからでも医師になっても続きますが、ずっとモチベーションを保つことができたのも、この「医療を受けられない人のための医師になる」という目標があったから。この目標だけが僕を他の人と決定的に分けるものだったからです。単に「医師になる」というだけなら、自分より優秀な人はたくさんいます。すると、自分の中で自分の存在価値が、目減りします。

モチベーションも上がりません。しかし、「医療を受けられない人のための医師になる」という自分だけの目標を立て、違う世界を開拓できたら、そこはまさに競争のない未開拓市場である。ブルーオーシャンで、自分の存在価値もはつきりと認識できます。

自分が人より劣っているという認識のなかでは、クリエイティブな世界でも、「ここは自分がリードしている」とか「自分しかない」と思うからこそクリエイティブティが発揮されるのです。

医師は自己承認欲求が満たされる仕事

——医師という職業の魅力が若者たちに伝えてください。

人にはみな、周りの人たちから価値ある存在と認められたい、尊敬されたいという「自己承認欲求」があります。病气やけがから人を救う医師は、それが本当に満たされる職業です。

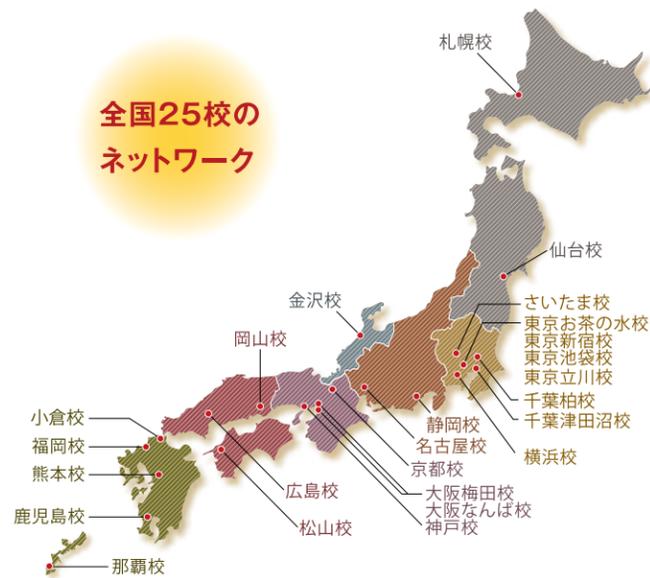
お金儲けを目標にすると、「自己承認欲求」は満たされません。しかし、「自己承認欲求」がずっと満たされ続けていくと、自己イメージが上昇します。自己イメージは、他の人から自分に向けられてきた「意見の総和」です。「この人は素晴らしい人だ」「大切な人だ」と言われ、自己イメージが上昇すると、自分のことを大切にす

るようになります。逆に、周りの人からまったく尊敬されないと、自分のことは大切に思えません。自分のことを大切に思える人だけが、真に他人のことを大切にできます。なぜなら、自己の延長線上で他人を認識するからです。したがって、逆説的ですが、自分のことを大切に思うためには、他人のことも大切にしなければなりません。医師を目指す人は、どうぞ周りの人を大切にしてください。

——最後に、医師を目指す若者に応援のメッセージをお願いします。

私には、いろいろな経験をするなかで得た人生の教訓があります。それは、私にできることは、誰にでもできるということです。もちろん、皆さんにも。できないとしたら、その理由は「やらないから」。ただそれだけです。人生の本質的な失敗は、行動しないことです。人生は、目指したものであり、そこを目指す過程で得られるもののほうが大きいのです。たとえば医師を目指した人が、結局、なれなかったとしても、医師を目指した過程で得られるものはたくさんあります。人生は「主目的」より「副作用」のほうが大きいのです。私はそれを「副作用の法則」と名付けました。だから、受験も全力を出し切ってください。皆さんに期待しています。

P05_ 広告



千葉柏校、静岡校、小倉校が開校。全国25校のネットワークを活かし、地元でしか入手できない医学部入試情報を全校舎で共有している。



生徒一人一人の状況を詳細に把握し「個別カリキュラム」を作成
個別担任制
個別ブースで開放感ある自習室。周囲の生徒を気にせず集中して学習できます。

「個別カリキュラム」による「完全マンツーマン指導」で医学部入試で圧倒的な実績を誇る

2017年度入試で、802名が合格を果たしたメディカルラボ。この圧倒的な合格実績は、どのような教育システムによるものなのだろうか。東京統括校舎長の小川友輝氏に、メディカルラボならではの教育の特色を聞いた。



メディカルラボ 東京統括校舎長 小川 友輝氏

志望校が求めるレベルとの差を埋める個別カリキュラム

医学部合格者数が増加の一途をたどっています。メディカルラボのどのような教育が強みになっているのでしょうか。

総難化した医学部入試を突破するためには、生徒一人ひとりの学力・タイプに応じた指導と、志望校にマッチした受験対策が行える「個別指導」が最適だと思います。メディカルラボは「個別カリキュラム」による「完全マンツーマン指導」の先駆校です。個別指導のノウハウが蓄積されているとともに、すべての教育システムが個別指導のために必要なことは何かという観点で構築されているのです。

—— 具体的な指導方法をお聞かせください。

入校直後に「スタートレベル判定テスト」「面談」「作文」「自己分析表」などで、現時点の生徒の学力をきめ細かく把握します。それまでどんな勉強方法をとってきたのか、そこに何か問題点はなかったのかも確認します。その上で、志望校を設定します。どんな問題が出され、どの程度の得点が要求される大学なのか、1年間頑張ればそこに到達できるのか、生徒と二階に検討し、保護者の意見も踏まえて決定します。

次に、志望校が要求するレベルと現状の学力との差を埋めるための個別カリキュラムを作成します。科

目ごとに、どの時期に何を勉強するのか、綿密な計画を立て、「フィードバック面談」で生徒に提示し、なぜこのような勉強を進める必要があるのかを説明します。この面談はとても重要です。どんなに優れたカリキュラムであっても、生徒が納得しなければ主体的に取り組もうとしないからです。不合格になる生徒によく見られるのが、今行っている勉強がはたして有効なのか、不安があるため、友人が使っている教材に手を広げるケースです。その生徒にとっては不適切な教材である場合も多く、すべてが中途半端になり、何も身につかないことも少なくありません。また、早くから難問ばかり解きたがる生徒もいますが、基礎が固まらない段階では消化不良になるだけです。ですから、月ごとに勉強する内容の意味をしっかりと理解させた上で、勉強をスタートさせることが大切になります。

—— カリキュラムは途中で軌道修正することもあるのですか。

生徒の学力の進捗状況を見て、必要に応じて随時修正をかけていきます。生徒一人に対して、担任と各教科の講師合わせて7〜9人の教員集団でサポートする体制になっていますが、カリキュラムの軌道修正は担任の役割です。講師は他教科の状況までは把握できないからです。担任が授業の様子や成績状況だけでなく、生活態度、保護者と生徒自身の意向なども加味して、総合的に判断しています。

出題傾向と生徒のタイプを踏まえて戦略を立てる

志望校によってもカリキュラムは変わりますか。

優秀な受験生が集う医学部入試では、ボーダーライン付近に多くの受験生がひしめき合います。結局のところ合否を分けるのは、5点前後の勝負なのです。当然、その5点を積み上げるには、志望校の出題傾向に応じたカリキュラムでなければ非効率といえます。

たとえば、大学ごとに必ず出題される単元があります。逆に、この大学で確率の問題が出たら、例年ほとんどの受験生が不正解の難問だから、他の問題に手が回らなくなるまで時間をかけなくていい場合については捨ててもいいといった指導もします。

—— 生徒のタイプによって、入試問題の向き不向きもありますか。

もちろんです。問題数の多い大学では解くスピードが重要です。計算ミスの多い生徒も向きです。ボーダーラインの得点率の高さも影響します。高得点が要求される大学では、少し考えて解けないようなら、次の問題に移る必要があるのですが、こだわりが強く、解けるまで考え抜こうとする生徒もいます。性格は簡単に変えられるものではありませんから、そんな生徒はボーダーラインの得点率が低く、思考力が問われる難しい問題が出題される大学に向いているといえるでしょう。メ

インプットとアウトプット両方が行われる授業

完全マンツーマン指導はどのような形で行われていますか。

大手予備校の多くは、授業でインプットするだけで、アウトプットは自宅学習に委ねられています。生徒は分かったつもりになっているかもしれませんが、これではしっかりと答案を作成する力にはつきません。メディカルラボでは、毎日、インプットとアウトプットの両方を経験させる画期的な授業システムを採用しています。

具体的には、個室のブースで、生徒1人に講師1人がついて指導します。1回の授業は150分で、10分ずつの休憩を挟んで、50分授業を3コマ連続して実施します。最初の50分間は講師が解説し、次の50分間で演習に取り組みます。この際、重視しているのが生徒に独力で解かせることです。一般的な個別指導では、分からないと生徒がすぐに質問し、講師が教えてしまいます。それでは誰も助けてくれない入試本番で、自分一人で考える力が養われないのです。近くで見ていると、どうしてもヒ

全国に25校舎を有する情報収集力が強い

そのほかの特色をお聞かせください。

メディカルラボでは、2018年開校の柏校、静岡校、小倉校を加えて、全国に25校舎を設置しています。これが大きな強みになっています。なぜなら、当然、校舎ごとに合格者の多い大学は異なり、それぞれの校舎が地元大学に関する情報収集を進めています。しかも、スピードに情報が入手できることが重要なポイントです。たとえば、推薦入試の後には、受験した生徒に学科試験や面接、小論文の内容を聞き、「昨年度とどんな変更点があったか」「その変更点は一般入試にも影響する可能性があるか」などを詳細に分析します。そうした情報は大学のホームページなどには掲載されません。このようにして得られた情報は、すべて

習時間講師は別室で待機しています

最後の50分間は、採点と解説の時間ですが、たとえ正解でも、どのように考えて解いたのか、生徒に説明させます。偶然解けたということもあるからです。生徒には「講師になったつもりで説明しなさい」と指導しています。相手に分かりやすく伝えようとするので、頭の中が整理されますし、本質的な理解も深まります。こうして完全なアウトプットができる問題を増やしていくことが、入試で威力を発揮するのです。

医学部合格を目指す親子の講演会

2851人を医学部合格させた予備校講師だけが知っている

あなたの医学部合格をかなえる

成功の9ステップ

参加無料

今までに2851人を医学部合格に導いてきた予備校講師の著書「あなたの医学部合格をかなえる 成功の9ステップ」をわかりやすく解説します。多くの受験生を見てきた講師だからこそ伝授できる「医学部合格をかなえる成功の9ステップ」ぜひご参加ください。

※詳細はメディカルラボのホームページをご覧ください。

可児 良友

1991年より大手予備校にて数多くの医学部志望者を合格に導く。2006年にメディカルラボの開校責任者となり、本部教務統括・生物の講師として、医学部受験の最前線で活躍中。近年はメディア出演も多い。

開催日	開催時間	会場
3/3(土)	10:00	大宮ソニックシティ
3/11(日)	10:00	柏セントラルビル 6F小会議室
2/11(日)	10:00	モリア津田沼 4F会議室
3/11(日)	15:00	新宿NSビル
2/25(日)	10:00	パレスホテル立川
3/3(土)	15:00	KDX横浜ビル 地下1F